

## 2010年度入試の展望②～資格系人気の復活

河合塾

2009/10/23

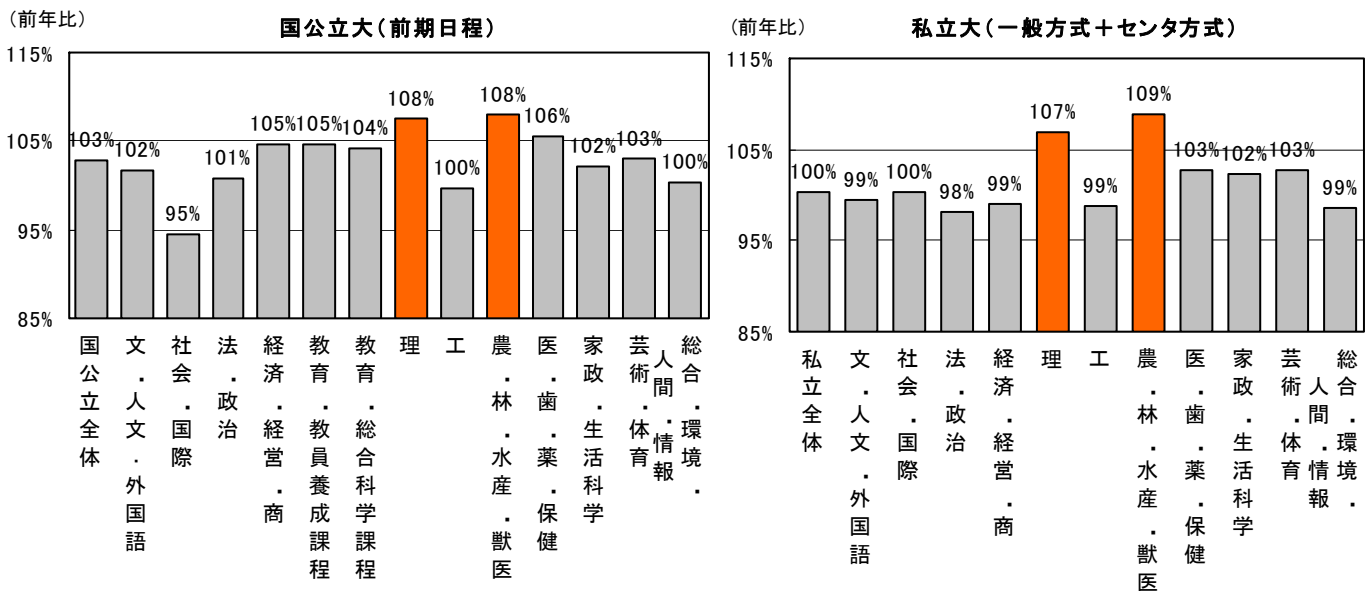
来春行われる2010年度入試について、この夏に実施した第2回全統マーク模試（受験者数：約35万4千人）で見られた志望動向から注目される点を紹介する。今号では、学部系統別の志望動向についてお伝えする。

### ■今春人気の「理」「農」は引き続き志望者が増加

今回の模試の受験者数は、18歳人口の増加に伴い前年比102%と増加している。このような状況で志望者数は国公立大（前期日程）で前年比103%、私立大で同100%となっており、国公立大の人気と私立大での若干の敬遠傾向が見られる。

そのなかで国私ともに共通するのは、「理」「農」学系の人気である。この両系統は今春入試で人気があった系統であるが、来春入試においてもその人気は継続しそうだ。両系統の分野別の動向を見ると、「理」学系は物理、化学分野でとくに志望者が増加している。「農」学系は獣医・酪農といった分野で志望者が減少しているが、生物生産・応用生命などの分野で志望者が大きく増加している。

第2回全統マーク模試 学部系統別の志望動向



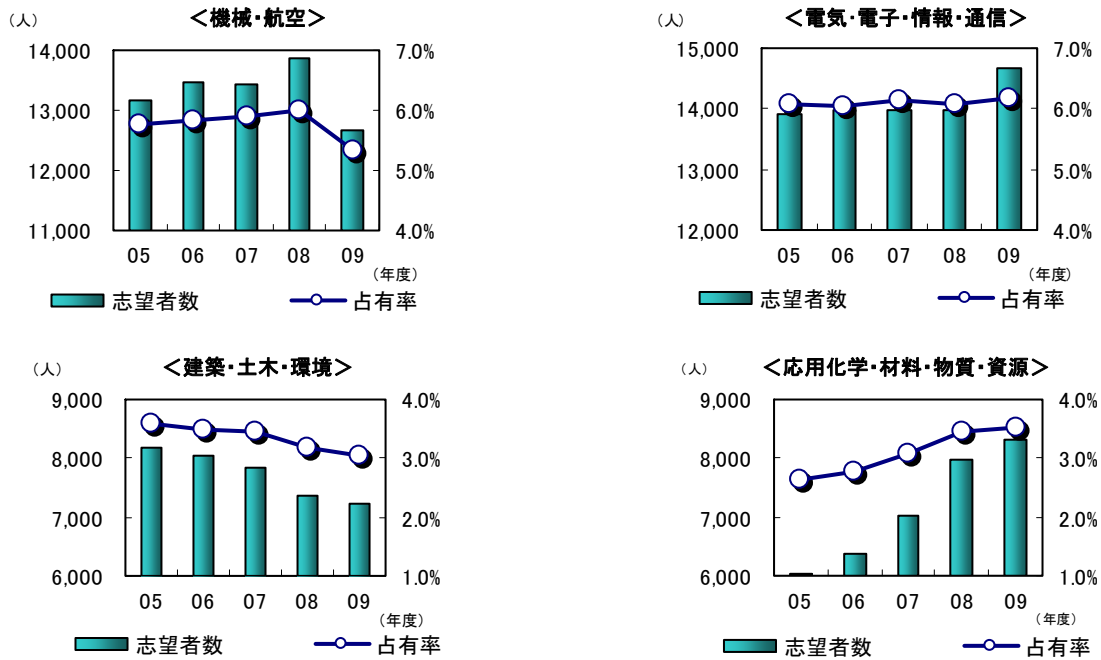
### ■工学部では不況が分野の人気に影響

一方、同じ理系の工学系は、国公立大で前年比100%、私立大で同99%と、ほぼ前年並みである。しかし、志望者数全体の前年比より低率であることから、相対的に人気は低下しているといえる。また、工学系では分野間の人気に開きが見られる。例として国公立大（前期日程）の「機械・航空」「電気・電子・通信・情報」「建築・土木・環境」「応用化学・材料・物質・資源」の4分野を取り上げると、「機械・航空」「建築・土木・環境」の2分野で人気下降、「電気・電子・通信・情報」「応用化学・材料・物質・資源」の2分野で人気上昇している。

人気が下降している2分野のうち、「機械・航空」分野では、昨年から約1割の志望者減となっている。昨年のトヨタショックをはじめ、自動車メーカー各社の営業不振などがクローズアップされており、不況と結び付けて敬遠された形だ。また、近年志望者の減少が続く「建築・土木・環境」分野は人気低下が止まらない。こちらも業界の不況が続いていることが影響していると思われる。

人気上昇している2分野のうち「応用化学・材料・物質・資源」分野は、近年志望者数を伸ばし続けている。この分野は工学系のなかでは比較的女子の占有率が高く、女子志望者の増加がその要因である。なお、ここでは取り上げていないが、「生物工」分野でも同様の傾向が見られる。「電気・電子・通信・情報」分野は、各メーカーの厳しい状況が伝えられるものの、自動車業界に比べ報道が目立たないためか、志望者数に影響が出ていないようである。また、理科の受験科目を物理主軸で考えている受験生の場合、機械や建築を除くと選択肢は限られてくる。機械や建築の分野を敬遠した結果、電気・情報系志望というケースも多いのかもしれない。

### 国公立大(前期日程) 工学系分野の志望動向



※数値は各年度とも第2回全統マーク模試の同系統の前期日程志望者数と占有率(国公立大前期全志望者に対する割合)

### ■資格系では人気回復系統も

今回の模試では、資格に直結する学部系統で人気上昇が感じられる。「教員養成」、「医」の両分野では減少していた志望者数が増加に転じた。医学科では2008年度から大規模な定員増が行われていることも呼び水となっており、とくに女子志望者が前年比108.6%と高い伸びを示している。「看護」分野では4年連続で志望者が増加しているが、今年は増加幅が一段と大きくなっており、人気上昇している様子が見え始める。なお、薬学、そして歯学の両分野も人気低下に下げ止まり感がみられる。

人気回復している系統がある一方で、依然志望者減少が続く系統もある。「獣医」分野では農学他系統の人気とは対照的に、志望者が減り続けている。「社会福祉」分野も同様に志望者減少が続く。「学費・修業年数が高い(長い)」「将来性に不安がある」「職場環境が厳しい」といったマイナスイメージが払拭できない分野は依然受験生たちから敬遠されているようである。

来春入試では、「国公立大人気」、私立大の「地元志向」などとともに、学部系統の人気にも「資格系の人気復活」など、不況時独特の動きが見られそうである。

### 国公立大(前期日程) 資格学系分野の志望動向

